

科学技術で地域振興を

田川市の県立大できょう国際会議

9カ国1地域の研究者約100人が集まる国際会議が1日午前9時から、田川市伊田の県立大で開かれる。産学官でつくる地域振興学会（星野宗広理事長）が、科学、化学、工学、医学、医科学、社会科学を融合させ、科学技術を地域振興に生かそうと初めて企画した。一般傍聴も可能で入場無料。

大学、企業：10カ国・地域研究者100人集結

九州大、名古屋大、東北大、発表する。

ソウル大（韓国）、ホーチミン 英語による発表が原則だが、英語による発表が原則だが、ラバヤ工科大（インドネシア）、20分に行われる記念講演は、など国内外の25大学と、ジャ 世界記憶遺産の山本作兵衛のボン玉石けん（北九州市）や 日記を研究する森山沾（けん）・県業7社の計約70人の研究者が。午後1時からの基調講演

立大顧問ら3氏が日本語で語る。午後1時からの基調講演は、30日に筑豊地区入りした参加者は、アスキーなどの地元企業や田川市石炭・歴史博物館、香春岳を見学。夜は飯塚市の近畿大産業理工学部で懇親会を開き、親交を深めた。

地域振興学会は県立大、近畿大、熊本大、田川市、一般財団法人M&A（マルボシ酢・アスキー）食品技術研究所などの関係者で組織。国際会議は今後も2年に1回開催する予定。星野理事長は「ものづくりと社会を結びつけ、日本の近代化産業を底辺から支えた田川を活性化させたい」と話している。

問い合わせは県立大☎0947（42）2118。

（中川博之）



アスキーの工場で、水だけで果実を洗浄する機械を見学する国際会議の参加者